

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年3月31日現在

今月の重点活動

■ほうれんそう 冬春ほうれんそう販売会議及び視察研修会

3月14日～15日にかけて、島園芸振興会の役員4名、JAぎふ職員2名と共に、富山市場を訪問し、冬春ほうれんそう販売会議及び市場での着荷調査及び販売店舗の視察等を行った。

平成29年度は、10月中旬までの出だしは好調だったものの、10月中旬以降立て続けに発生した台風の影響で、年内の出荷量は前年比49%と数量減の単価高で推移した。年明け以降も低温の影響で生育が進まず、保温のためにトンネル被覆をするなど、産地としてできる限りの対策を施し、3月上旬までの実績で数量は前年比71%、金額は前年比98%まで回復した。

農業普及課では、バイヤー等から得られた情報を参考に、引き続き高品質で食味の良いほうれんそうを生産、出荷できるよう関係機関と連携し、品種選定や栽培研修会などを開催して予定である。
(園芸産地支援第一係・川部 知)



【着荷調査の様子】

新たなブランドづくり

■にんじん 各務原市園芸振興会にんじん部会の取り組み支援

昨年、春にんじんで黒あざ症が例年になく多発した時期があり、流通段階で問題となった。黒あざ症は長時間高温乾燥にさらされると発生しやすいため、対策の一環として選果場で使用する保冷シートを予定どおり3月に導入した。

農業普及課は、保冷資材の材質などについてJAぎふに助言するとともに、5月の選果場稼働に合わせ効果の高い使用方法を調査する。

また、栽培面積の増大に伴い冬にんじん収穫後の根などの残渣が分解する期間が短くなるほ場が出てきたため、次作の春夏にんじんの品質に支障をきたすことが考えられることから、低温期でも残渣を分解できる資材の試験を実施している。その結果、3月の気温上昇に伴い残渣は溶けたように分解しており、効果があると判断できた。今後も、6月にかけて試験ほ場のにんじんの品質を確認する予定である。
(地域支援第二係・魚住雅信)



【保冷シートの外観】

多様な担い手づくり

■岐阜市水田農業担い手協議会 通常総会と労務管理研修会開催

3月28日、ホテルパークで岐阜市水田農業担い手協議会の通常総会と研修会が開催され、岐阜市の水田農業担い手35名と市やJA職員が参加した。

総会終了後には、社会保険労務士の荒井先生に「経営発展のための労務管理」について講演を頂き、研修を行った。土地利用型農業では、規模拡大が進み、雇用者も増えていることから、経営者の立場から労務管理について学ぶことができ有意義な研修会となった。

農業普及課では、今後も水田農業担い手への経営技術指導を通して、協議会活動への支援を行う予定である。



【研修会の様子】

(地域支援第一係・小島康平)

売れるブランドづくり

■水稲 羽島市水稲種子採種組合栽培講習会

3月22日、JAぎふ羽島北支店において、羽島市水稲種子採種組合栽培講習会が開催され、組合員と羽島市役所及びJAぎふ担当者が参加した。

平成29年産種子については、組合初となる全員(全量)合格となったが精選歩留まりがやや低い結果となった。



【栽培講習会の様子】

農業普及課から、生育経過や精選状況を伝えるとともに、次年度に向け、土づくりや施肥、病害虫防除等歩留まりを向上させる栽培管理のポイントを説明した。今後とも、ハツシモ岐阜S Lの優良種子生産に向けて、関係機関と連携し、栽培管理指導を行っていく。

(地域支援第二係・今井啓司)

■だいこん 春だいこん目揃会開催

3月5日、JAぎふ則武支店において、春だいこんの目揃会が開催された。市場やJA全農岐阜の担当者から、今後、関西や関東産地の出荷量が増加してくることや低温の影響でやや肥大不足であることなどの情報提供があった。

その後の目揃会では、出荷規格表の確認や選果・選別の徹底が行われ、品質の良いだいこんを出荷していくことを確認した。今後、管内の他地区でも春だいこんの目揃会が行われ、3月中下旬には出荷のピークとなる予想である。

農業普及課からは、病害虫防除や岐阜県GAP確認制度に基づくJAぎふだいこん部会の自己点検結果などについて情報提供した。



【目揃会の様子】

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)

■いちご 中間目揃会開催

3月6日、JAぎふ合渡支店において、JAぎふ岐阜市いちご部会の中間目揃会が開催された。

JA全農岐阜の担当者から、岐阜市のいちご部会の出荷数量は、台風や低温の影響により出遅れていたものの、現在、昨年産比94%まで回復してきているとの情勢報告があり、その後、市場担当者から出荷規格や過熟果対策としての着色基準の遵守について説明があった。

農業普及課では、関係機関と連携し、いちごの安定生産に向けた栽培指導や栽培技術情報の提供などを行っていく予定である。



【いちご目揃会の様子】

(園芸産地支援第一係・三和浩一)

■アスパラガス 意見交換会開催

3月15日、海津市アスパラガス組合の組合員7名がJAぎふ羽島市アスパラガス部会員のほ場を視察し、両組合によるアスパラガス栽培についての意見交換を行った。

まず農業普及課から、事前に受け取っていた海津市アスパラガス組合からの栽培に関する質問事項に返答を行った。その後、それらの内容を中心に熱心な意見交換が行われ、両組合にとって有意義な時間となった。



【視察の様子】

(園芸産地支援第一係・松浦香絵)

■6次産業化 瑞穂市柿振興会「柿りん」視察研修会開催

3月8日、瑞穂市柿振興会の女性加工グループ「柿りん」が農産物加工に関する視察研修会を開催した。関係機関を含め約15名が参加して、高山市丹生川町の(有)橋場農園を視察し、加工所の見学や6次産業化の取り組みについて説明を受けた。

柿りんでは、選果場の柿を活用した、柿ジャムや柿ペーストの製造販売を中心に、地元直売所や給食センター等へ卸している。農業普及課では、今後も生産拡大、販路拡大に向けて支援して行く。



【視察研修会風景】

(園芸産地支援第二係・西垣 孝)